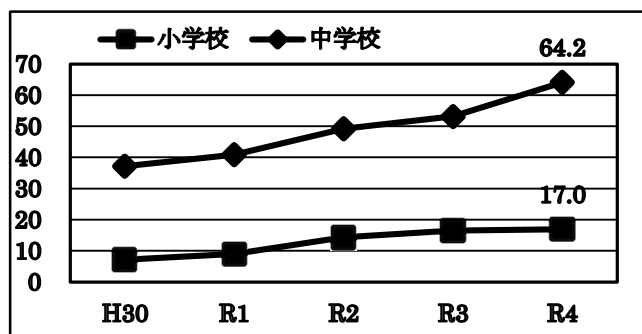


# 大垣市の不登校対策・対応

大垣市教育委員会 教育総合研究所

## 1 本市の現状

「令和4年度児童生徒の問題行動・不登校等調査」における本市の1000人あたりの不登校出現人数は、小学校で17.0人（前年度16.5人）、中学校で64.2人（前年度53.2人）と過去最多となっています。特に、中学校において、不登校数の増加が大きくなっています。



1000人あたりの不登校出現人数の推移（大垣市）

## 2 令和5年度までの主な取組

### (1) 各学校による取組

小中学校では、不登校児童生徒への支援のために、家庭訪問、教育相談、別室登校や放課後登校、スクールカウンセラー（SC）との連携、適応指導教室「ほほえみ教室」の紹介等、個々の不登校児童生徒や学校の状況に応じた取り組みをしています。

<具体的な支援の例>

- ◇定期的な電話連絡や家庭訪問による面談
- ◇専門家SCによる教育相談
- ◇学習プリント等による個別支援学習
- ◇ICT機器を活用したオンライン学習
- ◇ほほえみ相談員※による支援
- ◇別室（相談室等）への登校

※ほほえみ相談員

教室に入ることによる不安を抱える子どもたちに対して、学習支援や相談活動等を行う、市独自の相談員。家庭訪問や電話連絡を行うこともあります。

### (2) 教育委員会による支援

不登校児童生徒が通級できる適応指導教室「ほほえみ教室」を大垣市教育総合研究所に設けています。また、保護者等を対象とした電話・来所相談窓口を設置したり、家庭等で学習を支援する「ほほえみスタディサポート」や年齢の近い大学生が話し相手となる「メンタルフレンド」を派遣したりしています。

#### ◇適応指導教室「ほほえみ教室」

家庭及び学校と連携し、学習活動（自習が基本）や個人活動、体験活動、本人に対する定期的な相談活動等を行います。令和5年度は、高校説明会を実施し、80名を超える生徒や保護者に参加いただきました。

#### ◇電話相談

月曜日から土曜日まで、いじめ、友達関係、不登校に関する事など学校生活全般についての教育相談を電話にて受けています。



ほほえみ教室の様子

### ◇来所相談

専門的な知識及び経験を有する相談員が、子どもの発達や性格行動面について心理相談を行い、面談や心理検査などを通して本人や保護者に対してアドバイスします。

### ◇ほほえみスタディサポート (HSS)

学習意欲のある不登校児童生徒に対して、学習支援員が家庭や学校を訪問し、個別に学習支援を行います。

### ◇メンタルフレンド (MF)

大学生が家庭を訪問し、家庭に引きこもりがちな児童生徒の話し相手になったり、遊び相手になったりします。

### ◇その他

- ・生徒指導相談員による登校支援や別室支援
- ・不登校等の不安や悩みを医師に相談する専門医相談（年2回）
- ・不登校児童生徒の保護者が集まるほほえみ保護者会（年3回）



高校説明会の様子

## 3 今後の教育委員会の主な取組

### (1) 未然防止

- ◇児童生徒のコミュニケーション能力をより一層育成していくために、教職員研修等の充実を図ります。
- ◇児童生徒が集団生活等に必要なスキルを育成していくために、学校法人 西濃学園が学びの多様化学校として培ってきた指導のノウハウや、児童生徒との関わり方を市内の教職員が学び、実践に生かせるようにしていきます。
- ◇低学力層への支援の充実を図るため、学力向上推進委員会にて、効果的な手立てについて研究・啓発を行います。
- ◇児童生徒がネット等に依存してしまうことに対応するため、児童生徒や保護者を対象とする各種研修会に教育総合研究所から講師を派遣します。また、市PTA連合会と連携し、保護者への啓発を強化していきます。
- ◇発達特性を早期に発見・対応するため、保健センターや保育課、各園と連携し、各種検診や適性就学を充実させていきます。

### (2) 居場所づくり

- ◇民間が運営するフリースクールやフリースペース等と、当該教室に通う児童生徒の在籍校との情報共有を促進するとともに、指導要録上の扱いを適切に判断するよう各学校に指導しています。
- ◇家族以外の人と関わりを継続的にもっていない児童生徒を対象とした、フリースペース型の適応指導教室の新設について検討していきます。